

令和2年度 さくらんぼ防除暦

【表示されている農薬の使用基準は令和元年12月4日現在の登録内容です】

JA佐渡・さくらんぼ倶楽部

回数	散布時期 (生育状態)	主な対象病害虫	10a 散布量 (成木、 手散布)	薬剤名	散布濃 度	100% 当薬 量	収穫前 使用時 期	使用 回数	使用上の注意
臨時	休眠期	コスカシバ		ラビキラー乳剤	200倍	500 ml	休眠期	1	・落葉後～発芽前(休眠期)に使用する。 ・樹幹及び主枝に十分散布する。
1	落葉後～ 休眠期	カイガラムシ類	300	ハーベストオイル	50倍	2 L	発芽前	-	・カイガラムシ類の多発園地では必ず散布する。 ・カイガラムシ類の寄生箇所をブラシ等でこすり落とす。 ・ハーベストオイルの連用は樹勢低下を招く場合があるので樹の状態・カイガラムシの発生状況を見ながら散布する。
臨時	休眠期	カイガラムシ類 ハダニ類	300	石灰硫黄合剤	7倍	14 L	発芽前	-	・ハーベストオイル散布後は、1ヶ月散布間隔をとる。 ・ 霜害対策のため、霜ガード等で対策する。
臨時	4月上旬	カメムシ類	400	モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	50 g	前日	1	・春先の高温により、カメムシの発生が懸念される場合散布する。
2	4月中旬 (開花直前)	褐色せん孔病 炭疽病 灰星病	400	オーソサイド水和剤80	800倍	125 g	3	5	・樹脂病の患部は削ぎ取り、トップジンMペーストを塗る。 ・展着剤(ネオエステリン10000倍)を加用
		灰星病		トリフミン水和剤	1000倍	100 g	14	2	
臨時	4月中旬 (開花8分咲)	灰星病、炭疽病、 幼果菌核病、黒斑病 褐色せん孔病	500	ナリアWDG	2000倍	50 g	前日	3	・前年、灰星病が多発した園地では散布する
3	4月下旬 (落花5日後)	ケムシ類、ハマキムシ類 オウトウショウジョウバエ	500	サムコルフロアブル10	2,500倍	40 ml	前日	3	・マメコバチの巣群にできるだけかからないように 注意し、ハチの活動が終わる夕方に散布する。
		灰星病		スコア顆粒水和剤	2,000倍	50 g	前日	3	
4	5月上旬～ 中旬	コスカシバ		スカシバコンL	40～ 100本		-	-	・直接日光が当たらない目通りの高さに設置する。 ・下草の除草に努める。
5	5月中旬	ショウジョウバエ類、カメ ムシ類、カイガラムシ類	500	スプラサイド水和剤	1,500倍	66 g	7	3	・高温時は葉害が生じる恐れがあるため日中の散布を避ける。 ・ 葉面散布剤はこの頃より使用する。
		灰星病、炭疽病、 幼果菌核病		フルーツセイバー	1,500倍	66 ml	前日	3	
6	5月下旬 (着色期)	オウトウショウジョウバエ カメムシ類	500	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50 g	前日	2	
		灰星病		パスワード顆粒水和剤	1,500倍	66 g	前日	2	
臨時	5月下旬	ハダニ類	500	ダニサラバフロアブル	2,000倍	50 ml	前日	2	・ハダニ類が多発した場合は単用散布する。
7	6月上旬 (収穫直前)	ハダニ類、カメムシ類 ショウジョウバエ類	500	テルスターフロアブル	4,000倍	25 ml	前日	2	・ 薬剤散布後24時間経過してから収穫する。
		褐色せん孔病、炭疽 病、灰星病、黒斑病、 幼果菌核病		ナリアWDG	2,000倍	50 g	前日	3	
臨時	収穫期	オウトウショウジョウバエ カメムシ類	500	ダントツ水溶剤	2,000倍	50 g	前日	2	
		灰星病、幼果菌核病		インダーフロアブル	5,000倍	20 ml	前日	2	
臨時	収穫期	ショウジョウバエ類、オウト ウハマダラミバエ	500	スカウトフロアブル	3,000倍	33 ml	前日	2	・ 収穫期間中はショウジョウバエ、灰星病等に注意し発生 が見られる場合は臨時防除を行う。 ・ 薬剤散布後24時間経過してから収穫する。 ・ 散布間隔を少なくとも1週間あけるようにする。
		褐色せん孔病、灰星 病、幼果菌核病		ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍	33 g	前日	3	
臨時	収穫期	オウトウショウジョウバエ カメムシ類	500	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50 g	前日	2	
		灰星病、炭疽病、 幼果菌核病		フルーツセイバー	1,500倍	66 ml	前日	3	
8	7月中旬 (収穫直後)	ハダニ類	500	マイトコーネフロアブル	1,000倍	100 ml	14	1	・前年ハダニ多発園地は必ず実施する。 ・ウメシロカイガラムシ多発の場合はコルト顆粒水和剤2,000倍液 (前日、3回)を単用散布する。 ・高温時の散布、散布前後の降雨に注意する。
		褐色せん孔病 炭疽病、灰星病		チオノックフロアブル	500倍	200 ml	21	5	
9	7月中旬～ (ビニール 除覆後)	褐色せん孔病 炭疽病、灰星病	500	チオノックフロアブル	500倍	200 ml	21	5	・梅雨明け後ハダニが見える場合はダニゲッターフロアブル 2,000倍(前日、1回)を単用散布する。 ・高温時の散布、散布前後の降雨に注意する。
10	8月中旬～ 下旬	せん孔病	500	オキシラン水和剤	600倍	166 g	収穫終了 後～落葉 期まで	3	・高温時の散布、散布前後の降雨に注意する。
臨時	8月	ハダニ類	500	コロマイト乳剤	1,000倍	100 ml	7	1	・ダニ剤は同一系統のものは連用しないこと。
11	9月上旬～ 中旬	褐色せん孔病 灰星病 炭疽病	500	オーソサイド水和剤80	800倍	125 g	3	5	

灰星病防除重点時期

(注1)

農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談ください。
 周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。(他の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。)
 農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう！
 散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。
 防除は生育や病害虫の発生予測に注意して適期に実施しましょう。
 園地環境(防風樹の整備・草刈りの徹底)をよくしましょう。

ねずみ対策

**フジワシ粒剤(200g/樹 根雪前 2回以内)を
樹冠下半径約50cmの範囲の土壌と均一に混和する。
※根雪とは、積雪状態が続くこと**

(注2)

薬剤混用の順序(水和剤混用の場合) 水 → 展着剤 → 殺菌剤 → 殺虫剤
 薬剤混用の順序(乳剤混用の場合) 水 → 乳剤
 薬剤混用の順序(フロアブル剤、水和剤混用の場合) 水 → フロアブル剤 → 水和剤
 ※ボルドー液の場合はボルドー液調整後に展着剤→殺虫剤の順に混用しましょう。